

サンハイツ共和国

第45回通常総会結果

第45回通常総会は、2026年5月31日（日）午前10時より香椎浜公民館2階講堂にて開催

されました。議案は第3号議案のみ特別決議でしたが、以下のように全て承認されました。

	第1号	第2号	第3号	第4号	第5号	第6号	第7号	第8号	第9号	第10号	第11号	第12号	第13号
賛成	187	186	186	187	187	186	183	185	186	187	184	187	188
反対		1	2	1	2		5	3	1		2		
結果	承認	承認	承認	承認	承認	承認	承認	承認	承認	承認	承認	承認	承認

玄関ドア更新工事に着手

2026年6月6日（土）、7日（日）集会所にて玄関ドア更新工事の説明会が5回に分けて開催されました。

内容は新しい玄関ドアの仕様について、工事前後の注意点や、4日後より始まる各戸別のドアの実測調査の行い方や在宅のお願いなど。

特に不明なことや、予定の変更などについては下記の連絡先へ業務時間中にお電話ください。



説明会当日の参加者は143名。約72%の出席率で、YKKapの担当者からは「流石サンハイツさんですね、これだけ事前にお集まりいただけると工事開始時のトラブルも少なくなりとても助かります」という評価をいただきました。

実測調査に漏れた住戸の方は至急えびす技研にご相談ください。全戸揃って新しい玄関ドアで新年を迎えたいものです。どうぞご協力を宜しくお願いいたします。

えびす技研：中西 ☎090-3495-4605

YKKap：具島・野道 ☎092-284-4139

また、説明会当日に各戸へお渡しした新しい玄関ドアについての説明書が欲しい方には少し予備（7部）がございます。管理員室へ取りに来ていただければ差し上げますのでお越しください。

5月 定例理事会報告

5月10日午後7時より集会所にて5月度定例理事会が開催されました。

報告事項

日本総合住生活より

①4月度管理費等未収状況報告の件

管理費等の未収が1名であることが報告されました。

理事長より

①資材高騰による修繕積立金の不足について

4月3日(金)の読売新聞の記事に資材、人件費等の高騰による修繕積立金の不足に関する記事が掲載されていたことが報告され、当管理組合でも早期に対応しなければ今後工事ができなくなる可能性があること、今後、修繕積立金の値上げも検討が必要となることが説明されました。

審議事項

①不要自転車回収・廃棄の件

駐輪場整理のため不要自転車の廃棄を行うことにいたしました。管理員が黄色のリボンを付けますので、まだ使用する場合は所有者自身で外してください。また、廃棄したい自転車には所有者でリボンを付けてください。リボンは管理員室にあります。

6月30日以降は対象自転車を小学校前空きスペースへ移動し、1～2週間程度後回収業者にて廃棄いたします。



②総会議案書最終確認の件

JSより、総会議案書最終案について説明がなされ、最終確認を行いました。

また、JSからデータを受領し、印刷会社に印刷を依頼することといたしました。

③総会準備と当日の役割の件

総会当日の役割分担、出席通知票、委任

状、議決権行使書の集計方法について再確認いたしました。

その上で、総会前日の5月30日(土)17:00から出席通知票、委任状等の集計を行うこととしました。

五月雨(さみだれ)を

象潟(きさかた)や 雨に西施が 合歓の花
(芭蕉)

五月雨にけぶる象潟の風景を「憂いを帯びてうつむく美女・西施」になぞらえ、しっかりと濡れる合歓の花の姿を捉えています。奥の細道が辿った松島や象潟は景勝地として有名ですが、晴れ松島に対し象潟は雨がお似合いのようです。芭蕉が象潟(きさかた)の着想を得たのがこの漢詩です。（蘇東坡が詠んだ七言絶句）

「水光 潋灩(れんえん)として 晴れ方に好し
山色 空濛(くもう)として 雨も亦奇なり
西湖を把(た)ばって西施に比せんか
淡粧濃抹(たんしょうのうまつ) 総(すべ)て相宜(あいよ)し」

五月は五月雨の憂鬱に五月蠅(うるさ)い虫も湧きますが、五月晴れの青空に博多湾からの涼風が吹き抜けるサンハイツは「春過ぎて夏来るらし白妙の」の季節感が横溢しています。

古(いにしえ)より我が国は瑞穂の国と尊ばれていますが、古事記や日本書紀では「豊(とよ)葦原(あしはら)瑞穂(みずほ)国(こく)」と記されており、みずみずしい稲穂が豊かに実る日本の古い呼び名で、稲作が日本という国の原点であることを表しています。大量の水を使う水田には五月雨はなくてはならない天の恵みです。

5月にある風習は、八十八夜に新茶を摘み、端午の節句は鯉のぼりでこどもの成長を願います。第2日曜日が母の日です。日頃の感謝の気持ちを伝えたり、贈り物をします。因みに海の字の中に母を置きますが、海は原始生命が誕生した母なる海です。

垂乳根の 母を背負いて そのあまり
軽ろきに泣きて 三步あゆめず

たわむれに 老妻背負いて そのあまり
重きに泣きて 一步もあゆめず

母の日に因んで老妻を背負いてみるのも、防災訓練の一助になるかもしれません。

筒井次男